

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|------------------------|--------------|--------|--------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援・保育所等訪問支援スマイル今里店 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 12月 1日 | | ～ | 2026年 1月 15日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 29家庭(同一世帯あり) | (回答者数) | 27家庭 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 12月 1日 | | ～ | 2026年 1月 15日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8名 | (回答者数) | 8名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年2月15日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 子ども理解に基づく専門的支援の質の高さ 子どもの特性や発達段階に応じた個性の高い支援が行われており、個別支援計画の内容と実際の支援が一致している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・お子様一人ひとりについて、五領域の視点から丁寧にアセスメントを行い、発達段階や特性に応じて「なぜその行動が見られるのか」を大切に考えながら支援内容を組み立てている。保護者様とお話を重ね、お子様の気持ちや背景を一緒に理解することを心がけている。 ・また、平日は午前個別専門療育、午後小集団・集団療育を行い、状況やニーズに応じて組み合わせる体制を整えている。理学療法士・作業療法士・心理担当職員・保育士等の専門職が連携し、運動面・生活面・気持ちの面を総合的に支援している。 ・さらに、施設や公園の活用、環境の工夫などを通して、お子様が「できた」「やってみたい」と感じられる経験を積み重ねられるよう取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりの専門性の向上と、専門職間の連携強化が課題である。アセスメントや支援方針について共通理解を深めるため、振り返りや研修の機会を継続的に設け、支援の質の均一化と向上を図る。 ・また、専門的な支援内容や意図を保護者様に分かりやすく伝える工夫を行い、家庭と連携した支援につなげていく。 |
| 2 | 職員配置とチーム連携の安定性 人員配置基準を満たした職員体制により、日常的に丁寧に安心感のある支援が提供できている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人員配置基準を満たした安定した職員体制のもと、お子様一人ひとりとの関わりを大切に、安心して過ごせる支援を行っている。職員は「今しかできない経験」を大切にしながら、お子様の笑顔や自信につながる関わりをチームで共有し、日々の療育に取り組んでいる。 ・また、保護者様や通園先、関係機関とこまめに情報共有を行い、家庭や地域とつながった支援を心がけている。 ・休日については、ご家庭の状況やお子様の興味に合わせた利用提案や活動内容の工夫を行い、主体性を大切にした支援につなげている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在の支援への満足度を維持しながら、発達段階や特性に応じた活動内容のさらなる充実を図る必要がある。 ・子どもたちの「やってみたい」という思いを大切にしつつ、支援のねらいや意図をより分かりやすく保護者様や関係機関と共有し、職員間での振り返りと改善を継続することで、支援の質の向上につなげていく。 |
| 3 | 保護者様との信頼関係と高い満足度 ・日常的な情報共有や丁寧な相談対応を大切に、保護者様との信頼関係を築いている。支援内容について高い満足度を得ており、アンケートにおいても「職員の情報共有が早い」との評価を受けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有については、朝礼・終礼での口頭共有に加え、欠席した職員にも確実に情報が伝わるよう、議事録の共有を徹底している。また職員間共有アプリを活用し、重要事項や変更点を速やかに全職員へ伝達できる体制を整えている。 ・日々寄せられる保護者様からの悩みや要望、個別相談・グループ相談、子育てセミナー等での相談内容については、職員間で情報を共有し、意見交換を行いながら、できる限り迅速かつ丁寧に対応している。 ・さらに、通園先や他事業所、相談支援事業所、区役所など、お子様やご家族を取り巻く関係機関と密に連携し、支援の方向性を統一することで、お子様が安心してのびのびと生活できる環境づくりに努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者様との信頼関係をさらに深めるため、情報提供の質と方法を継続的に見直し、より分かりやすく丁寧な発信を行う必要がある。 ・また、個別の相談内容を職員間で一層共有・分析し、支援の質の向上と対応の均一化を図ることが課題である。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 避難訓練等の保護者様への周知 ・保護者様への安全計画および防災・避難訓練に関する周知が十分とは言えない状況にある。 ・当事業所では、安全計画に基づき、年間を通じた職員研修および、児童と共に行う定期的な避難訓練を実施しているが、その取り組み内容や実施状況について、全保護者に対する情報発信が限定的となっており、周知の徹底に課題がある。 | ・訓練当日に利用のあった児童の保護者様に対しては、送迎時の口頭説明や連絡帳等を通じて個別に訓練の様子を伝えている。 ・また、訓練実施後にはホームページ（ブログ）等で情報発信を行っているものの、掲載までに時間差が生じる場合があり、全家庭に対して同時かつ計画的に周知する体制が十分に整っていない点が課題となっている。 | ・今後は、口頭説明、書面配布、ホームページ、事業所の共有アプリ等、複数の手段を活用し、安全計画および訓練に関する年間計画を、年度当初および必要に応じて全家庭へ発信する。 ・また、毎月の予定表に避難訓練を明示し、定期的な周知を行うことで、保護者様の認知向上を図る。 ・訓練実施後については、速やかに実施報告を行い個別対応にとどまらず、全家庭への情報共有を徹底する。 ・今年度は児童のみを対象とした定期訓練であったが、今後は災害用伝言ダイヤルの活用や緊急時の引き渡し訓練等、保護者様の協力を得た訓練の実施を検討し、実践的な防災体制の強化を図る。 |
| 2 | 地域交流および外部機関との連携 ・日常的に公園や買い物支援での公共施設の利用、外出イベントにおける公共交通機関・公共施設の利用、また地域行事への参加等を行っているものの、地域住民や他事業所との継続的な交流の機会が十分とは言えない状況にある。 | ・現在は、利用児童の通園先・関係機関(他事業所等)との連携を最優先として支援を行っている。 ・また、個人情報およびプライバシー保護への配慮から、事業所として地域と積極的に関わる取り組みについて慎重に検討してきた経緯があり、その結果、地域に開かれた交流の機会が限られている。現時点では、自事業所主導で地域交流の場を設けることができていない。 | ・今年度は、グループ全体の取り組みとして、本社に地域住民を招待し、夏祭りおよび冬祭りを開催した。これらの行事には自事業所の職員も参加し、地域との関わりを持つ機会とした。 ・今後は、自事業所においても地域行事への参加や、他事業所との情報交換の機会を段階的に増やし、無理のない形で連携の幅を広げていくことを目指す。 |
| 3 | | | |